

## 2010 年度自己点検・評価報告書

### 〔文学研究科〕

#### 1. 教育内容・方法

##### (1) 教育課程等

#### 助言項目：

法文学研究科と文学研究科における入学試験では、社会人のための特別措置を講じておきながら、入学後における授業・研究指導の時間・時期において適当な方法を考慮しておらず、社会人が職業を継続しながら学ぶためのサポート、生涯学習の一環としての大学院教育のあり方などについての検討、また、社会人の学びを推奨するような具体的な取り組みが行われているとはいえないので積極的な検討が望まれる。

#### (評価当時の状況)

博士前期課程では社会人に対する入試に特別な配慮はとられていなかった。社会学専攻および教育学専攻では、博士後期課程の入試において、本来2科目を課す外国語試験を1科目とし、代わりに小論文を課すという特別措置をとっていた。しかし、とくに入学後の社会人へのサポートなどについて、特別な策を講じてはいなかった。また、入学後の社会人院生に対する配慮に関しては、個々の指導教員に任せられていた。

#### (評価後の改善状況)

カリキュラムについては、2008年度からカリキュラム改正を行い、従来の修士論文だけでなくリサーチペーパーの作成によって修了できることとした（教育学専攻臨床心理学専修除く）。これによって、論文の字数および研究時間に関してかなり負担が軽減されたといえる。とりわけ、職業を継続しつつ研究活動を行う社会人にとってリサーチペーパーの導入は負担軽減という面で有効な制度改善であった。

入試については、一部の専攻を除き、外国人受験者には外国語を免除しているが、社会人についても同様に外国語免除の対応をしている。ただし、これは社会人枠を設けて実施する「いわゆる社会人入試」ではなく、社会人という環境の中でなお向学の志を持ち、本学大学院を目指す方への特例措置である。

なお、本学大学院の開講形態は、学部と同様、平日日中の開講である。本学の立地条件や教職員の労働状況等も鑑み、大学院の土日および夜間の開講は考えていない。社会人で本学大学院への進学を希望する方は、その状況をふまえた上で、本学大学院への進学を希望していることを申し添えておく。

#### (参考資料)

文学研究科における社会人の推移（2006年度～2010年度）

## 1. 教育内容・方法

### (3) 学位授与・課程修了の認定

#### 助言項目：

学位授与のために必要な業績などの実体的な判断基準が明記されていないので、あらかじめ学生に明示することが望まれる。

#### (評価当時の状況)

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を作成・公開していなかった。

#### (評価後の改善状況)

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を検討・作成することを、学長を中心とした研究科長会議において確認し、作業を進めてきた。2011年春より、本学HPにて公開している。

なお、博士学位取得については、論文提出までに経なければならないプロセス（ex. 学会発表、論文投稿、研究発表など）については、大学院要覧への掲載による周知（文系）や、論文提出説明会での周知（工学）など、研究科・専攻ごとに対応を行っている。

修士の学位論文提出についても、各専攻で発表会を積極的に開催している。

#### (参考資料)

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）のHP公開ページ

研究科委員会議事録（平成22年10月28日）

平成23年度大学院要覧